謹賀新年　平成26年元旦

日大通教
校友会報

発行所
日本大学通信教育部校友会
〒101-0065
東京都千代田区西神田2-7-10
TEL・FAX 03（3234）5858
発行責任者　白戸　忠志
編集責任者　師田袈裟茂

子夏曰く、日々に其の亡き所を知り、
月々に其の能くする所を忘るること無し。
学を好むと謂うべきのみ。
「日に日に自分の分からないことを知り、
月々に覚えていることを忘れまいとする、
学問好きだといって宜しかろう」

新年のご挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長　**白戸忠志**

新年明けましておめでとうございます。

全国校友の皆様に、心から新年のご挨拶を申し上げます。

この一年、校友会に対し皆様からのご支援・ご厚情に篤く感謝申し上げます。

昨年は台風や竜巻などによる自然災害に遭われました方々にお見舞い申し上げます。

二〇二〇年にオリンピックとパラリンピックが東京で開催することに決まり、その経済効果が各方面に出てくるのではないかと期待もしております。

日本大学通信教育部は9月に市ヶ谷の新校舎に移転します。校友会も三崎町から日大会館の8階に事務局が移転することが決まりました。

1月25日(土)に桜門会館で新年会が開催されます。大学教職員の方々・学生・他学部校友会役員の皆さんなど多くの方が参加された楽しい行事を計画しております。

5月25日(土)は第43回定期総会を予定しております。

昭和47年5月に発足した校友会は今年で42年になります。

今年は役員改選の節目の年です。選出されました新役員により新事務所で校友会活動が始まります。

今回は役員会費を値下げして多くの校友に本部役員として参加をお願いいたしました。

四国ブロック長の山崎副会長のご指導で高知県支部が25年8月に岡崎新支部長を中心に活動を開始いたしました。また、津村大阪府支部長により奈良県支部が活動体制に入ったとの嬉しい知らせが届いております。

校友会活動は支部が活発になる必要があります。校友の皆さんは通信教育部の卒業ではありません、国家の定める通信教育と言う学習方法により正規に単位を修得し日本大学を卒業されました。通学生の卒業と同じで、卒業学部の校友会やオール日大校友会都道府県支部や桜門会などの活動にも積極的に参加して日本大学の卒業生として親睦を深めて、その活動手法を通信教育部校友会にも採り入れて支部の活性化に取組んでください。

ここで校友会活動について再考してみたいと思います。

三位一体の活動方針はこれからも継続するべきだと考えます。これは大学・学生（学友会）・校友会の三者が相互に協調し発展することにより日本大学の振興が得られるからです。校友会では会員相互の親睦・向上を図る事を目的として活動しておりますが、役員の高齢化と新規会員の減少により支部活動が停滞しているのも否めない事実と認識しております。「三位一体」の協調と発展について、通信教育部校友会ではどのようなことを今後取組んでいけばよいか年頭にあたり考えてみました。まず、学友会との連携については支部単位での活動が基本で、支部総会などの行事に連絡して相互に参加し意見交換をしてまいりましたが学友会との活動認識に差があるようです。校友会では学生の自主性を尊重して行動すべきであり、学友会と校友会は相互理解し対等に交流できる独立した親睦会であるべきです。校友会が学友会に対して指導する立場ではなく、学友会の組織は尊重すべきです。近年地方では、学友会支部の休眠など学習環境が悪化する中で、学生の相談に対応し卒業支援や入学勧奨ができれば、校友会支部員の仲間として活動の継続が可能です。校友会支部会員の皆さんにご協力をお願いいたします。

日本大学校友会本部では平成31年の創立130周年に向けての記念行事を計画しております。詳細に付きましては本部校友会誌「桜縁」で確認してください。通信教育部校友会にも記念事業について要請があります、校友の皆様のご協力をお願いいたします。

先輩方の築かれました通信教育部校友会が益々発展するように役員一同今年も頑張ってまいります。

新年に当たり、校友皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ今までと同様ご理解とご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶
「市ヶ谷への移転と新しい通信教育部」

日本大学通信教育部
部長　**福田弥夫**

日本大学通信教育部校友会の皆様に初春のお喜びを申し上げます。ご報告が遅くなりましたが、昨年十月に、市ヶ谷移転を含め通信教育部の改革に努力するようにとの命を受け、大学より通信教育部長再任の辞令を頂戴いたしました。あっという間の三年であり、改革は思うようには進んでおりませんが、通信教育部の現状は待ったなしであり、今後もより一層努力を続ける所存でございます。皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

さて、平成二六年は通信教育部にとってどのような年になるでしょうか。九月には通信教育部発祥の地である神田三崎町から、市ヶ谷への移転が予定されております。市ヶ谷移転に併せて、事務処理の基幹システムの新システムへの切り替えが予定されており、そのほかにも、懸案であったカリキュラム改定も進み、夏休み前には学則改訂を上申する予定です。あわせて、ICT技術を活用した新しい形のスクーリングの試行実施も検討されております。このように、平成二六年は通信教育部の飛躍のための助走期間であると同時に、新たな通信教育部の基礎を形成する年ともなります。

平成二四年度から「理事長特別研究」で採択された「日本大学におけるeラーニングの研究」は、フロントランナーとなっている通信教育部によるeラーニングが、平成三一年に創立一三〇年を迎え、日本一の教育力の実現を目指している本学の教育力の一層の向上のために不可欠であることを実証しています。今後は、通信教育部がこれまで蓄積してきたノウハウをフルに活用し、本学におけるeラーニングの中心的役割を果たしてゆくことが期待されております。

このeラーニングの活用によって、全国各地にある付属高校と大学との連携も一層強化され、バーチャル上のひとつのキャンパスにおいて、すべての人たちが同時に学ぶことが可能となります。先輩たちが懐かしむ世田谷教養部時代をバーチャルキャンパスによって再現し、各学部の学生たちがあたかも机を並べて学んでいるような環境の整備が可能となってまいりました。この環境は通信教育部の学生たちも共有できるようにし、地理的、時間的、そして経済的制約を完全に克服しようと考えております。

海外の大学との交流も進んでおります。台湾師範大学との交流も深化しており、一月一二日から通信教育部の校舎を利用して台湾師範大学が海外スクーリングを実施いたします。二月にはハワイ大学でのスクーリングも再開いたします。

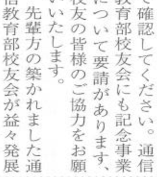
通信教育部の本拠地は、思いで多い神田三崎町から市ヶ谷へ移転することになりますが、サテライトキャンパスは三崎町に残り、伝統の夏期スクーリングは、三崎町をメインキャンパスとして実施いたします。移転に関して複雑な心境を抱く校友の皆様も多いこととは思いますが、これを新しい通信教育部創造のための第一歩であると理解していただきたいと思います。これから通信教育部が市ヶ谷に移転することによって、大学本部との連携が深まり、本学における教育内容の充実と制度の改革に対して通信教育部の果たす役割がますます高まると確信しております。

九月には市ヶ谷新校舎の完成を校友会の皆さんとぜひ祝いたいと思います。これまでと相変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、通信教育部校友会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

市ヶ谷新校舎一号館

午年への期待

学校法人日本大学理事長
日本大学校友会会長
田中英壽



通信教育部校友会会員の皆様、新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。

皆様にとりまして平成二十五年は、どのような一年でしたでしょうか。母校日本大学は、一八八九年（明治二十二年）に創立され、昨秋創立一二四周年を迎えました。昨年三月末現在の卒業生総数は、約一〇八万人となり、文字通り我が国最大の規模と有数の歴史を誇っております。

しかし、その歴史を繙くと決して平坦な道のりではありませんでした。最初の危難は、一八九二年（明治二十五年）十一月に学祖・山田顕義先生が生野銀山を視察中に急逝されたことです。山田先生を失うことは、経営上の指導力と資金調達力を失うことを意味し、翌年七月の第一回卒業式と同時に学校の存続が危ぶまれました。

そして、この危機的状況に立ち上がったのが、第一回卒業生でした。彼らは手分けをして関係者に学校再建を働きかけ、その熱い思いは人々の心を動かし、一八九三年（明治二十六年）十二月に学校存続の目途をつけるところとなりました。

卒業生、講師、在学生の有志により祝宴が張られ、その席上、今後とも母校のために団結協力することを誓い、日本法律学校校友会の設立が決議されたのです。これが日本大学校友会の始まりであります。

その後も今日に至るまで、幾度かの大学存亡の危機にさらされましたが、その度に卒業生、教職員、学生の三者が一体となった活動により危機を乗り越えてきました。ここに、大学を支える組織としての校友会の姿が見事に現れているのではないでしょうか。

日本大学は、二〇一九年（平成三十一年）に創立一三〇周年を迎えますが、「日本一教育力のある大学」を目指して教学施策と連携する記念事業が着々と進行しております。通信教育部校友会の皆様には母校が目指す理想に期待していただき、倍旧のご支援・ご声援を賜りますよう、この場をお借りしてお願い申し上げる次第です。

午年の一年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますことと、通信教育部校友会のますますのご隆盛を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

ご卒業おめでとう

平成25年9月卒業生

【学部別卒業生数】

学部	学科・専攻	人数
法学部	法律学科	16名
	政治経済学科	9名
文理学部	文学専攻（国文学）	3名
	文学専攻（英文学）	31名
	哲学専攻	4名
	史学専攻	7名
経済学部	経済学科	15名
商学部	商業学科	27名
	計	112名

【表彰を受けた方々】

賞	学部	学科・専攻	氏名
■優等賞	文理学部	哲学専攻	豊平　太郎
■通信教育部長賞	法学部	法律学科	高垣　俊哉
■精励賞	法学部	政治経済学科	高山　紀男
	文理学部	史学専攻	桐生　俊子
	文理学部	史学専攻	遠藤　博子
	通信教育部		他一名
■校友会長賞	法学部	法律学科	大方　千明

新年会のお知らせ

開催日時■平成 26 年 1 月 25 日（土）
受付14:30～15:00 新年会15:00～18:00
会　　場■日本大学桜門会館４階（桜ホール）
会　　費■男性：7,000 円■女性：6,000 円
■新卒：4,000 円■学生：2,000 円
※会場は JR 市ヶ谷駅徒歩１分の校友会館です。
※参加は校友会事務局まで TEL·FAX03(3234)5858